

その奇妙な「音」は、
ただの始まりでした。

残 ざんえ 穢

— 住んではいけない部屋 —

1.30 土
2016 全国公開

竹内結子 橋本愛 坂口健太郎 滝藤賢一 佐々木蔵之介
監督:中村義洋 [Eテレ連続殺人事件] (予言屋) 原作:小野不由美『残穢』(新潮社刊)
脚本:鈴木薫一 音楽:松川洋平 配給:松竹 制作:ザ・ファクトリー 製作/配給:住んではいけない部屋-1 製作委員会 製作事務:ハビタット
©2016 住んではいけない部屋-1 製作委員会 zang-e.jp #ざんえ

部屋に残されたく穢れ。不可思議な事件の連鎖が誘う、驚愕のラストとは——。戦慄のリアルミステリー





観る者の常識を覆す、 衝撃の結末。 『屍鬼』『十二国記』シリーズ 小野不由美の傑作小説、 待望の初映画化

あなたは、考えたことがありますか？
今、自分が住んでいる場所に、
過去どんな人が住み、
どんな事件があったかを…。

その「音」に気づくまでは、日常でした——

小説家である「私」のもとに、女子大生の久保さんという読者から、1通の手紙が届く。

「今住んでいる部屋で、奇妙な“音”がするんです」

好奇心を抑えられず、調査を開始する「私」と久保さん。

すると、そのマンションの過去の住人たちが、引っ越し先で、

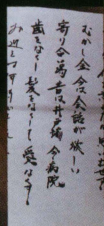
自殺や心中、殺人など、数々の事件を引き起こしていた事実が浮かび上がる。

彼らは、なぜ、“音”のするその「部屋」ではなく、

別々の「場所」で、不幸な末路をたどったのか。

「私」たちは、数十年の時を経た壮大なる戦慄の真相に辿り着き、

やがて、さらなる事件に巻き込まれていく——



第26回山本周五郎賞を受賞した小野不由美(『屍鬼』『十二国記』シリーズ)の小説『残穢』(ざんえ)を、ミステリーの名手・中村義洋監督(『白ゆき姫殺人事件』『予告犯』)が映画化。予定調和を許さない驚愕のラストまで、かた時も目が離せない。小野自身を彷彿とさせる主人公「私」には、人気実力派女優＝竹内結子。「私」とともに調査を重ねる「久保さん」には、神秘的な魅力を放つ女優＝橋本愛。初共演の2人に加え、佐々木蔵之介、坂口健太郎、滝藤賢一ら個性的な出演陣が集結。

ここに、いまだかつて見たことがない
戦慄のリアルミステリーが誕生する。

2016年 1月30日(土)
全国ロードショー